

308383

7

1 Select Statement(s), 1 Search Term(s)
Serial#TD812

?exs

Executing TD812

S5 1 AN=US 249858-1981

?s s5 not s4

1 S5

1 S4

S6 0 S5 NOT S4

?s pn=(jp 53032274 or jp 78032274) or an=78jp-032274

1 PN=JP 53032274

0 PN=JP 78032274

0 AN=78JP-032274

S7 1 PN=(JP 53032274 OR JP 78032274) OR AN=78JP-032274

?t 7/7

7/7/1

DIALOG(R)File 351:DERWENT WPI

(c) 2000 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

002020887

WPI Acc No: 78-33919A/197819

Fire retardant hydraulic fluid compsn. for oil pressure mechanism -
comprises a glycol lubricating oil and a dithio carbamate cpd.

Patent Assignee: IDEMITSU IND CO LTD (IDEK)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Main IPC	Week
JP 53032274	A	19780327					197819 B

Priority Applications (No Type Date): JP 76106253 A 19760907

Abstract (Basic): JP 53032274 A

A fire-retardant lubricating oil compsn. consists of water-glycol lubricating oil contg. >0.1 wt.% of dithiocarbamide of formula $R_1R_2N.C(S).S -M (I)$ (where R_1 and R_2 are 1-12C hydrocarbon gps. opt. substituted by ≥ 1 OH, M is K, Na, Ca, Ba, Zn, Fe, Cu, Ni, Cd, Pb, Bi, Sb, Se, Te, Zr or Mo, and n is an integer corresp. to a valence of M).

This fire-retardant lubricating oil compsn is used in an oil pressure mechanism and serves to prolong fatigue life of metal parts and components. In an example 97.0 wt.% of water-glycol lubricating oil, 1.0 wt.% of β -diamyl dithiocarbamide, 1.0 wt.% of polyoxyethylene lau. amine as a dissolution assistant, and 1.0 wt.% of 1-amino-2-propanol as a dissolution assistant were mixed to prepare a fire-retardant lubricating oil compsn. having a metal fatigue life of 670 mins.

⑩日本国特許庁
公開特許公報

⑪特許出願公開
昭53—32274

⑫Int. Cl.
C 10 M 3/32

識別記号

⑬日本分類
54 B 47

庁内整理番号
6865—46

⑭公開 昭和53年(1978)3月27日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮難燃性作動油組成物

⑯特 願 昭51—106253

⑰出 願 昭51(1976)9月7日

⑱発 明 者 高原孝三

市原市青葉台1丁目9番地6
⑲出 願 人 出光興産株式会社
東京都千代田区丸の内三丁目1
番1号
⑳代 理 人 弁理士 萩野平

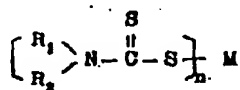
明 細 書

1. [発明の名称]

難燃性作動油組成物

2. [特許請求の範囲]

1. 一般式



(式中、 R_1 および R_2 は場合により水酸基で置換されている $C_1 \sim C_{12}$ の炭化水素基であつて、 R_1 および R_2 は同一かまたはことなつていてもよく、 M は金属元素で $K, Na, Ca, Ba, Zn, Fe, Cu, Ni, Cd, Pb, Bi, Sb, Se, Te, Zr$ または Mo であり、 n は金属 M の原子価に相当する整数である)

で表わされるジテオカルバミン酸塩を0.1重量%以上添加したことを特徴とするホーグリコール系難燃性作動油組成物。

3. [発明の詳細な説明]

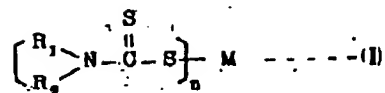
本発明は難燃性作動油に関する。更に詳しくい

えば、本発明は油圧装置における金属部品材料の疲労寿命を延長することのできるホーグリコール系難燃性作動油に関する。

今日産業界における油圧作動の利用分野は拡大し、油圧機器用油はますます多様化している。したがつて、作動油にも用途に応じていろいろな特性が要求されている。たとえば、金属を加熱して、変形しやすい状態にして圧延したり、鍛造して成形する鍛造機械の作動油としては、火災の危険防止の見地から燃えにくいという性質が、他の諸特性に優先して要求される。安全作業対策上および消防署の強い指導等により、市場では難燃性作動油(耐火性あるいは不燃性作動油ともいわれる。)の要求がたかまつている。市販されている難燃性作動油は、リン酸エステル系、エマルジョン系、ホーグリコール系の三つのタイプにわけられる。一般にリン酸エステル系作動油では、パッケンソールの潤滑が限られるという問題がある。また、エマルジョン系作動油では、エマルジョンの破壊が生じやすいなど乳化安定性に問題がある。一方、

水-グリコール系作動油は、鉱油系作動油に使用されるほとんどの油圧機器材料との適合性があり、貯蔵安定性も良好である。しかしながら、鉱油系作動油に比較して金属の疲労寿命の点で著しく劣り、金属材料が早期に疲労し破壊するという欠点がある。P.KENNY と E.D.YARDEY は文献 Wear, 20, 110 (1972) で、併進性作動油のタイプの金属疲労寿命に関する実験データを発表している。この実験結果によれば、水-グリコール系作動油の金属疲労寿命は鉱油系のそれに比較して約 $\frac{1}{10}$ 程度である。

本発明は水-グリコール系作動油の金属疲労寿命が短いという前記欠点を解消してこの欠点を改良するために種々研究を重ねた結果、特定の添加剤の採用によつて、この欠点を排除できることを見出し本発明を完成するに至つた。すなわち、本発明の目的は金属疲労寿命を延長することのできる水-グリコール系作動油組成物を提供することである。本発明によれば、上記の目的は、一般式 (I)



で表わされるジチオカルバミン酸塩を、通常の水-グリコール系作動油に 0.1 重量%以上添加することによつて達成される。

一般式 (I) において、 R_1 および R_2 は $C_1 \sim C_{12}$ の炭化水素基で、互いに同一かまたはことなつてもよく、たとえばアルキル基、フェニル基、アルキル置換フェニル基あるいはベンジル基等があげられる。またこの炭化水素の任意の位置の水素が任意の数の水素基で置換されていてもよい。M は金属元素で、K, Na, Ca, Ba, Zn, Fe, Cu, Ni, Cd, Pb, Bi, Sb, Se, Te, Zr または Mo である。n は整数で金属 M の原子価に相当する数である。このようなジチオカルバミン酸塩としては、たとえばジアルキル・ジチオカルバミン酸塩 (K, Na, Ca, Ba, Zn, Fe, Cu, Ni, Cd, Pb, Bi, Sb, Se, Te, Zr または Mo 塩)、N-エチル-N-フェニル・ジチオカルバミン酸塩 (Zn,

Fe または Pb 塩)、ジベンジルジチオカルバミン酸塩、あるいはビス(ヒドロキシエチル)ジチオカルバミン酸塩、ビス(ヒドロキシプロピル)ジチオカルバミン酸塩、ビス(ヒドロキシブチル)ジチオカルバミン酸塩、ビス(ヒドロキシヘキシル)ジチオカルバミン酸塩等があげられる。上記ジチオカルバミン酸塩は水-グリコール系作動油にその 0.1 重量%以上添加すればよく、添加量が多いほど有効である。しかしながら添加量が大きくなるにつれて溶液中に安定に溶解していることが困難になつてくるため、ジチオカルバミン酸塩の濃度によるが 1 重量%以上添加するときには溶解助剤を併用することが好しい。溶解助剤としては当該技術分野における通常の乳化剤を使用することができ、たとえばポリオキシエチレンアルキルアミン (P.O.E. ステアシルアミン、P.O.E. オレイルアミン、P.O.E. ラウリルアミンなど、P.O.E. はポリオキシエチレンを意味する)、ジエチレングリコールアルキルエーテル (D.E.G. モノメチルエーテル、D.E.G. モノエチ

ルエーテル、D.E.G. ジエチルエーテル、D.E.G. モノブチルエーテル、D.E.G. ジブチルエーテルなど、D.E.G. はジエチレングリコールを意味する。) あるいはアミノアルコール (1-アミノ-2-プロパノール、2-アミノ-2-エタノール、3-プロパジオール) 等があげられる。これらの溶解助剤は 1 種または 2 種以上の混合物としてジチオカルバミン酸塩に対してその半量 (重量比) 以上を添加することが望ましい。本発明において使用する水-グリコール系作動油としては例えば特開昭 51-19280 号公報、米特許第 2947699 号明細書などに開示されているものが使用できる。

以下、実施例によつて本発明を具体的に説明する。

実施例

(I) 試料の調製

本発明に係る水-グリコール系作動油 (以下本発明品という。) は下記の比較油に本発明の必須成分であるジチオカルバミン酸塩および必要に応じて

第1表に本發明品（試料No. 2~20）と比較品（試料No. 21）の令属疲労寿命の試験結果を示す。

特開第53-32274(3)
試料Ⅰ～Ⅶはジアシル・ジチオカルバミン酸アンチモンについて、その添加量と金属疲労寿命との関係をみたもので、0.1重量%以上の添加しなれば疲労寿命延長の効果は得られないことがわかる。本発明によるカルバミン酸塩の添加効果は添加量と共に増大するけれども、添加量の上限はカルバミン酸塩の溶解性と原料コストの面から制約を受けるので5重量%以下とするのが好ましい。試料Ⅶ～Ⅱ0は、ジチオカルバミン酸塩の添加量を10重量%とし、ジチオカルバミン酸塩の金属・炭化水素等の相違および溶解助剤を添加した場合における、カルバミン酸塩の添加量と金属疲労寿命との関係を検討したもので、いずれも比較品にくらべて金属疲労寿命が著しく延長されていることがわかる。ことに、溶解助剤を用いることによつて試料Ⅰ7、19および20でわかるとおり、金属疲労寿命が極めて著しく延長される。

第 1 表

水-グリコール系導電性 作動液		試料名																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
第 方 （ 順 号 ）	フニープアイーブルフ2000	995	999	9985	9990	9990	9950	999	999	999	999	999	999	999	999	999	999	999	999	999	999	100
	ジメチル・ジチオカルミン酸・アンイモン	005	010	015	020	030	050	10													10	
	ジメチル・ . . . ナトリウム								10													
	. . . カリウム									10												
	. . . 亜鉛										10											
	ジエチル・ . . .											10										
	ジプロピル・ . . .												10								10	
	ジブチル・ . . .													10								
	ジペンチル・ . . .														10							
	ジヘキシル・ . . .															10						
	N-エチル-N-フェニル・ . . .																10					
	ジベンジル・ . . .																	10				
	ビス(ヒドロキシエチル)・ . . .																		10			
	ポリオキシエチレンテトラミン																				10	10
	ジエチレングリコールモノブチルエーテル																		10			
1-アミノ-2-プロパノール																					10	
計		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
金属疲労寿命（分）		.07	379	872	415	451	496	508	455	527	590	400	410	450	480	500	471	610	444	655	670	74